

2018/03/05

秋山佑太＋布施琳太郎 「モデルルーム」



会期：2018年3月24日(土)～4月21日(土) 13:00 - 19:00

*24日は18:00 - 20:00のみ開廊

*日・月・火・祝日は休廊

オープニングレセプション：3月24日(土) 18:00 - 20:00

会場：SNOW Contemporary / 東京都港区西麻布 2-13-12 早野ビル 404

■秋山佑太+布施琳太郎 展覧会のご案内

SNOW Contemporary では 2018 年 3 月 24 日(土)から 4 月 21 日(土)まで、秋山佑太+布施琳太郎による個展「モデルルーム」を開催いたします。

本展は、「建築・デザイン・工事現場・大工職人」として活動してきた秋山佑太と「人類史としての芸術史・iPhone が形成する社会」への批判的な問い掛けから活動を続ける布施琳太郎という異なる出自のアーティスト 2 名による展覧会となります。

1981 年生まれの秋山は 20 年にわたり建築の内装工を続けており、2016 年から現代美術の領域で建築と美術を接続させる試みを開始、展覧会の空間設計などを行ってきました。東京・江東区住吉の民家にて開催した「BARRACKOUT 展」(2016)では、展覧会の空間設計と建造物を同時に扱った作品展を企画・発表しています。1994 年生まれの布施琳太郎は、独自の視点による同時代性の可視化を試みるインスタレーションや展覧会企画を意欲的に行っています。2016 年に発表した企画展「iphone mural (iPhone の洞窟壁画)」では、スマートフォン以降に出現した新たな「自然環境」を、かつての洞窟壁画に描かれた古代の人々の自然への向き合い方と対照させようというユニークなコンセプトが話題となりました。



展覧会風景 / (左)秋山佑太「集積階段」2017 ~ 「BARRACKOUT 展」より
(右)布施琳太郎「比類なき世界の、比喩の洞窟」2017

それぞれに強い個性を持つアーティストではありますが、本展では、二人展ではなく共同制作という意識でギャラリーを一つの「モデルルーム」として構築した作品を発表いたします。自身の作品が置かれる周辺の状況から空間を制作するという、独自のスタイルを持つ両者が共同で作るインスタレーションを、SNOW Contemporary にてぜひ体感いただけましたら幸いです。

■アーティストステートメント

満足に眠ることもままならず、自国の未来を想像することもできない。そんな今「夢を見ること」は限りなく不可能になっている。インターネットにはフェイクニュースと下品な広告ばかりが溢れた現代。イメージだけが氾濫し、イマジネーションは枯渇して行く。しかし。こんな時代だからこそ「夢を見ること」について我々は考える。

夢というものは「過去と未来」その両方からやってくる。そしてそれを同時に具現化した空間が「モデルルーム」だ。昨日までの日常。そして、これから訪れるであろう新しい生活。ふたつの異なる時間がひとつの密室にフィードバックされ、人々のイマジネーションは活性化する。つまり「モデルルーム」とは人間に夢を見させる装置なのである。

『僕はアパートの壁に寄りかかって、かつての恋人を想う。若かりし頃に戻りたまふと願わん僕の愚かさ。この部屋の外に夢は無い。この部屋で寝ていたら、まだ少しの夢はみれる気がする。きっとこの部屋の前の住人も、僕のあとに住むであろう住人も、この部屋でなら夢はみれるはず。』

『薄いカーテンをつらぬいて差し込む太陽の光が嫌いだから、布団から出るのがめんどくさくなって、学校を休んだ。けどすべてが手の届くところにある。友達も、アニメも、YouTubeも、食べ物も、顔を見たことのないちょっとだけ好きな人も。そして夢を見ないためにクスリを飲んで、わたしはこの部屋と世界をリミックスする』

■秋山佑太+布施琳太郎 略歴

秋山 佑太 (Yuta Akiyama)

美術家・建築家。1981年東京都生まれ。「移動/集積」といった方法で、複雑な時を刻んで来た建物や土地に「地霊」を呼び起こす作品を制作。また、展覧会の空間設計・インディペンデントキュレーターとして活動。

自主企画展に、「BARRACKOUT」展 (旧松田邸 / 2016)、「ground under」展 (SEZON ART GALLERY / 2017)、「Super Circulation / 超循環」展 (EUKARYOTE / 2018) がある。主な参加芸術祭・グループ展に、カオス*ラウンジ新芸術祭 2016 市街劇「地獄の門」(福島県いわき市 / 2016)、カオス*ラウンジ・UDOK 共催 市街劇「小名浜竜宮」(福島県いわき市 / 2016)、「サイトスペシフィック疲れと、場所の憑かれ」(ゲンロン カオス*ラウンジ 五反田アトリエ / 2016)、「ISETAN ニューアーティスト・ディスプレイ」(伊勢丹新宿店本館 / 2017)、「Reborn-Art Festival 2017」(宮城県石巻市 / 2017) など多数。

ウェブサイト：<http://yutumn.com>

布施琳太郎 (Rintaro Fuse)

1994 年生まれ。東京芸術大学美術学部 絵画科油画専攻卒。現在は同大学 大学院映像研究科メディア映像専攻に在籍。先史時代の洞窟壁画と現代のクラウド化した社会生活の比較と研究を起点として、時代を反映し批判する作品の form を模索し、インスタレーション作品と展覧会企画をコンスタントに発表している。

自主企画展に「ソラリスの酒場」(2018, the Cave/333, 横浜)、「新しい孤独」(2017, コ本や, 王子)、「iphone mural(iPhone の洞窟壁画)」(2016, BLOCK HOUSE, 神宮前)。主な参加芸術祭・グループ展に「TOTALTOPIA」(2018, TAV gallery, 阿佐ヶ谷)、「MEDIA PLACTICE 17-18」(2018, Bank Art NYK, 横浜)、「牛窓・亜細亜藝術交流祭」(2017, 旧玉津幼稚園, 岡山)、「ファミリー/ コンセプチュアル」(2017, ongoing, 吉祥寺) など多数。

ウェブサイト：<http://rintarofuse.com>

■ お問い合わせ 本展の広報にご協力賜りたくお願い申し上げます。

SNOW Contemporary

〒106-0031 東京都港区西麻布 2-13-12 早野ビル 404

tel & fax : 03 6427 2511

mail : snow@officekubota.com

HP : <http://snowcontemporary.com>

担当：石水美冬 (いしみず みふゆ)